

子どもたちの夢を育む生涯学習の推進方策について

諮問

県教育委員会では、心豊かに、たくましく、未来を切り拓くことができる人材を育成するため、これまで様々な学びを通じて、必要な資質や能力を養ってきたが、子どもたちがこうした学びを更に進めようとする意欲をもつためには、学びの原動力である夢や目標を育むことが大切である。夢をもち育みながら、その実現のための道筋や方法について考え、更には夢や目標に向かって挑戦する教育である「夢育」について、学校教育のみならず、就学前から、社会教育、家庭教育など様々な学びの機会を通じて推進していきたい。

ついては、子どもたちの夢を育む生涯学習の推進方策について、次の視点を踏まえ、調査審議していただきたい。

視点①

学校と地域(家庭、社会教育施設、社会教育団体、企業等)が連携・協働して行う取組として、就学前から、子どもたちの意欲や主体性等自分を高める力を育むためには、どのような取組が有用と考えられるか。

視点②

その際、新学習指導要領の基本的な理念である「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域住民の参画による学校運営協議会（コミュニティ・スクール）や地域学校協働活動の効果的な推進が求められる中、学校側からの視点も含めて、県内各地域の実情に沿う体制づくり、運営方法は、どのようなものが効果的であるか。

視点③

子どもたちに豊かな学びを提供する地域ぐるみの活動を、保護者や地域の大人の学びにどのように生かすことができるか。

答申

1 3つの視点から見た方策

視点① (有用な取組)	<ul style="list-style-type: none">子どもの意欲や主体性等自分を高める力を育むためには豊かな体験活動が必要である。体験格差の是正のため、教育課程内で全ての子どもが豊かな体験活動を行うことや、放課後や休日などの教育課程外で豊かな体験活動を提供することが望ましい。大人は、育みたい力を見取るためのポイントを共有した上で、子どもに対し、「伴走者」として適切な支援を行う。教育課程内で豊かな体験活動を行う取組としては、総合的な学習の時間等で地域の課題等を解決する学習や地域の魅力を発見する学習等が効果的である。また、放課後や休日に、地域社会全体で豊かな体験活動の場をつくっていくことが重要である。
視点② (体制づくり)	<ul style="list-style-type: none">地域と学校の連携・協働のため、地域と学校のつなぎ役となるコーディネーターの存在が不可欠であり、どの学校にも一人は担当するコーディネーターがいることが望ましい。学校運営協議会と地域学校協働活動を効果的に推進するため、地域と学校が目的を共有した上で、取組の実施・評価を行い、次の取組につなげる。地域住民、企業、NPO 等多様な主体を巻き込んだ緩やかなネットワークづくりを進めることが求められる。

視点③ (地域側のメリット)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と学校が連携・協働することが、地域住民と教職員の信頼関係の構築や地域住民同士の新たなつながりづくりに役立つことが期待できる。 ・ 地域住民による地域づくりへと活動が広がっていくことが期待できる。 ・ 子どもたちの活動に関わったことで大人自身の非認知能力の向上が期待できる。
-------------------	--

2 具体的な方策の提案

(1) 地域と学校をつなぐ人材の育成

地域学校協働活動推進員等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と学校のつなぎ役として、各学校に地域学校協働活動推進員等が1名以上在籍することが望ましい。 ・ 養成研修会を行い、新たな人材を確保するとともに非認知能力に関する理解促進を図るなど、スキルアップを促す。 ・ 社会教育主事講習の受講を促す。
市町村における社会教育主事の配置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各市町村における社会教育主事の配置を働きかける。 ・ 社会教育主事のスキルアップを図る。

(2) 管理職等の生涯学習・社会教育への理解の促進

地域と学校の連携・協働や豊かな体験活動の必要性について、校長や市町村教育委員会の長等、組織のリーダーの理解が進むよう働きかけていく必要がある。

(3) 子どもたちの意欲や主体性等自分を高める力を育むための企業やNPO等と連携・協働した仕組みづくり

